

教室(診療科)紹介 (84)

QOL 向上を目指して

形成外科学講座

教授：大西 清
林 明照 (佐倉病院)
講師：岡田恵美 (医局長)

教室のあゆみ

東邦大学形成外科の歴史は、1977年丸山 優先生(当時慶應義塾大学講師・現東邦大学名誉教授)と田井良明先生(当時慶應義塾大学講師・現久留米大学名誉教授)が、交代で大森病院にて診療を開始したことにさかのぼる。1981年、丸山先生が慶應義塾大学より本学に戻られたのを機に、外科学第2講座内に形成外科研究班が発足した。1989年に独立し形成外科学研究室新設に至り、1993年には形成外科学講座へと昇格した。付属大橋病院には、1996年岩平佳子先生を主任として診療科を開設。付属佐倉病院には2000年大西を主任とし診療科を開設し、2002年より林 明照先生が主任となり診療にあたっている。2012年丸山教授が退任され、大西が講座責任者を引き継ぎ、大森病院を中心に3医療センターで診療、研究、教育を展開し現在に至っている。

教室の現況(臨床活動、研究活動、主催学会等)

当教室ではより良いQOLを目指すことを基本理念におき、臨床・先端的研究・教育に積極的に取り組んできた。

1. 臨床・研究活動

皮弁移植術・マイクロサージャリーの分野では、新しい皮弁の開発や新たな応用を常に追求してきた。基礎的研究では、皮弁血管解剖、血行動態の解析など、皮弁による修復法を血行概念別に整理、分類してきた。臨床では、四肢、体幹、頭頸部など部位別、応用別に特殊性を加味した各種皮弁を開発している。また低侵襲手術の概念を提唱し、主要血管を温存した皮弁や移植法の開発、内視鏡下の皮弁作



丸山 優教授退任祝賀会にて(2012. 5. 11)
医局員集合

成術や移動術、その他 expander の応用や、微小血管吻合による遊離皮弁移植を用いた各種悪性腫瘍切除後再建、切断肢(指)再接着手術などを積極的に行っている。

頭蓋顎顔面外科領域では、先天異常、悪性腫瘍切除後・外傷後変形、頭蓋底再建手術をはじめ、骨固定・骨切り術・腫瘍摘出術などの開発・工夫を行うとともに、コンピュータ解析、3次元実体モデル、ナビゲーションシステムなどを駆使した形態の再現や術前後のシミュレーション評価を行っている。また、陳旧性顔面神経麻痺に対し、新たに開発した皮弁の導入や、笑いの一期的再建を行い治療成績の向上を図っている。顔面の再建では、機能・整容の両面を考慮した subunit, miniunit principle を提唱、具現化し自然な形態の再現に應用している。

唇顎口蓋裂、合多指(趾)症などをはじめとする各種先天異常に対し、関連各科との協力体制のもとにチーム医療にあたり、実績を伸ばしてきた。その病因論的研究はもとより患者生涯にわたる総合的治療を目指している。

創傷治癒の分野では、ケロイド、肥厚性瘢痕の予防および治療はもとより、アポトーシス、マトリックス分解酵素発現性、線維芽細胞の特異性などにつき、病態究明に関する基礎研究を行っている。近年、多血小板血漿の創傷治癒促進効果が報告され、われわれも基礎的研究および臨床において難治性潰瘍の治療などに応用し、良好な結果を得ている。また、フットケアにも対応し、高齢化社会の到来など今後のニーズはさらに高まるものと期待される。

レーザー治療では、Q-swアレキサンドライトレーザーなどによる皮膚良性色素性疾患に対する臨床的検討を行っている。さらに2012年には皮膚良性血管病変治療用レーザー装置(Vbeam®)も導入し、血管病変治療への応用も開始している。

2. 主催学会

以上のような基礎的研究や臨床結果の報告，新しい情報収集の場として，学会活動も積極的に行ってきた。

主な主催学会は以下のとおりである。1996年第1回形成外科内視鏡手術研究会，1999年第26回日本マイクロサー

ジャー学会，2001年第10回日本形成外科学会基礎学術集会，2004年第22回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，2009年第52回日本形成外科学会総会学術集会。

(教授：大西 清)